

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475300562		
法人名	株式会社ウェル		
事業所名	なんてん伊在荘 ユニット名 やま風		
所在地	仙台市若林区伊在字西田70-3		
自己評価作成日	平成28年1月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

なんてん伊在荘では、現在地域との関わりをたくさん作り、地域の一員として生活できるよう取り組んでおります。去年行った夏祭りでは民生委員の方や町内会長のお声掛けにより、地域の子供会のご協力も頂きました。夏祭りだけではなく、現在は廃品回収に協力するなどでつながりを継続しております。又、地域の保育園の園児たちとは長いお付き合いをさせていただいております。今後はご近所の方々が気軽にお茶のみにいらっしゃれるような環境作りに取り組んでいこうと思っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/">http://www.kaijokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成28年	1月	20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設してから13年目を迎える「なんてん伊在荘」は、入居者が行動的で外出の機会が多い「やま風」、入居者の症状が進んでおり個々に折り紙や散歩で過ごされることが多い「せせらぎ」、入居者と職員の絆が深い「あお空」の3ユニットで、それぞれの特徴を尊重した支援に努めている。職員の入れ替わりが多く、家族から指摘や意見があり、職員の基本的な接遇マナー研修をし、改める等努めている。目標達成計画に掲げた地域交流は、日頃その関係性を意識し、積極的に働きかけ、改善に向かっていく。さらに日常的な協力体制を構築しようと運営推進会議を活用し取り組んでいきたいとしているので期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **なんてん伊在荘** )「ユニット名 **やま風** 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	伊在荘の理念、各ユニットでの理念を掲げ、スタッフ全員で共有している。	年度初めに職員全員で見直し一部改めた。職員の見やすい所に掲示している。日常のケア、家族からの意見等を真摯に受け止め、ミーティング時に振り返ったり、研修を実施し改善する様取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所での行事や、町内会の行事、保育園児との交流を通じてふれあいの場が持たれている。	目標達成計画に掲げ、地域交流に積極的に働きかけた。商業施設が多く、地域との協力関係が困難な状況にある。事業所の知名度もなかなか浸透しがたく、継続して取り組みたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生や、中学生の職場体験を積極的に受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催し、各ユニットでの取り組み内容を報告している。また、参加者より意見や要望を聞き、今後の取り組みに生かしている。	「伊在荘サロン」と名称を改めて家族の顔ぶれも変わった。生垣の伐採やホームの夏祭りに地域住民の参加協力の呼びかけ、家族来訪時の職員の挨拶の指摘等が話し合われ、改善する等有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	情報交換や相談を行っている。	介護保険の更新手続きに向くことが多い。若林地区の地域ケア会議「地域包括ケアについて」に2回程管理者が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	なんてんのマニュアルを整備している。又、事業所内の勉強会にも取り入れ、スタッフが正しく理解できるようにしている。	年2回、担当が企画し勉強会を実施している。テスト形式にし、日常のケアの振り返りをし、拘束について確認する。認知症状が進み、声掛けに応じない方には短い言葉「来て」等と身振り、手振りで伝え本人の行動につながる様支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ間での連携や、勉強会、外部研修等で学び、徹底・防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の講習等で学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に前もって説明し、話し合いを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を行い、意見を交換している。また、その内容を文書にし、回覧している。	職員の名前がわからない、家族への挨拶がない等厳しい意見があり、接遇マナー研修をし、職員間で改めたり、玄関に顔写真入りで掲示する等改善に努めた。家族の要望もあり、家族会を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	何でも話し合える関係を築けるようにしている。	研修で学んだアロマの効果を取り入れ、香りで入居者が落ち着くなど、職員が意見を出し合いサービスに反映させている。職員の自己評価で頑張ったところを管理者が評価し、接遇面が改善する様努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に2回リーダー会議を開き、必要な情報交換を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己評価を行っている。又、月に1度勉強会を開いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内で交換研修を行い、新しい発見や見習うべき事柄を他職員に伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っている事不安な事があれば、スタッフ間で話し合い、危険が生じないようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で私たちができる事できないことを説明したうえで解決できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が求めているサービスを聞いたうえで家族の意向を取り入れつつ本人の生活を満足できるように会議などで話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事できないことを見極め、できない場合はどうしたらできるようになるかを考え、職員に依存しない関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等で家族参加を募り、職員・本人・家族で楽しめる時間を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に協力して頂き、なじみの理容室やご自宅への外出などをおこなっている。	近くの神社に行ったり、家族の面会や、時折来訪する保育園児を楽しみに待っている。家族に電話をしたい要望にはその都度応えている。入居者間の仲もよく、他ユニットを訪問しお茶飲みをし交流をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の好きな話題や物などを提供し、関わりやすい空間作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、家族の希望があれば、写真や本人の記録の提供を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が訴えている事不安な事などを話して下さった時は都度ユニットカンファを開き、改善するよう努めている。	「明日、何かある」と午後に不穏行動になる入居者と一緒に食事作りをすると軽減した。誕生日にエプロンを贈り、調理を役割とした。入居者の会話、行動から思いを引き出し計画書に反映し実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族に基本情報シートを記入して頂いたり、ご本人に聞きながら生活歴等の把握を行い、場合によってはケアプランに活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックを行い、健康状態の把握に努め、変化があったときなどは、申し送り等で情報を共有し、必要であれば病院との連絡を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	来所時にご本人の様子の報告を含め、ご家族の思い等を聞き、ケアプランに反映している。	本人の思い、病気とケアの留意事項を見出し、心身の情報シートを基に計画書に反映している。月に1回評価し、4か月に1回見直している。状態の変化時や家族の要望で変更し、担当が家族に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子で変化があったときは個人記録に細かく記入し、また申し送りで情報を共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	提携医・提携施設等はあるが、まだまだ不十分。イベント等に参加し、地域との連携を密にすることから始め、最終的には地域の機能を活かしたサービスの多機能化が実現できるようにしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当施設のイベントを利用し、地域の方々に協力をお願いしたり、地域のイベントにも積極的に参加するようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に、ご家族やご本人の希望をお伺いし、希望に添った受診方法にて対応している。	月2回往診医、訪看が健康チェックに来訪する。入居者の要望に応じて、家族・職員の付き添いで通院する方もいる。皮膚の変化時等は症状を見て軟膏塗布もしている。改善が見られない時は専門医の紹介もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1度訪看が来所し、利用者の体調チェックを行っている。その際に気付いたことなどを相談し、アドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	当ユニットでは最近入院した方はいないが、入院時は、利用者の状況を的確に伝え、入院中も定期的に面会に行き、看護婦やDrから本人の状況について情報をもらえるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合や看取りについての指針について同意を頂いている。又、入所時にお伺いした終末期の考えについて、実際にその時が来たら再度お気持ちをお伺いし、Drと相談の元希望に添った対応ができるようにしている。	数例の看取りをしている。開所時からの入居者を、家族の要望で、医師の指示のもとに対応し見送りができた。家族から不満もなく、職員間でも後悔の無い対応が出来た。家族の多くが看取りを希望しており、応えていきたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	なんてんのマニュアルにそって内部の勉強会で学習しているが、訓練は行なっていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に数回避難訓練を行っている。運営推進会議で地域の方々に協力をお願いをしているが、避難訓練などで実際に地域の方々に参加して頂いていない。	年2回(夜間想定含む)実施した。2階の入居者をベランダではなく1階に避難させることや地域の協力要請などが反省に出た。9月の水害時は近くの商店の協力があつたが夜間帯の協力体制がなく懸念される。	入居者の避難等に関する人員の協力体制等は職員だけでは限界がある。訓練時にも地域に呼びかけ、協力体制を整備する等入居者、家族、職員の安心感につなげて頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を理解したうえで声掛けや対応に気を付けている。又、利用者同士の関係も考えながら席の配置を考えている。	排泄の時には戸を閉める。入浴時はタオルで全体を覆う等配慮している。耳元で静かに話し対応する。接遇マナー研修で基本的な挨拶などを学び、職員間の意識に変化が見られる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	YES. NOのわかりやすい返事ができる質問や本人の意見が聞ける質問などその人に合わせた話し方で希望を聞き、なるべく実現できるように対応する。(食事メニューなど..)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	夕食後は、ご本人が眠りたい時に合わせナイトケアを行ったり、日中はご本人が過ごしたいように過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定ができる方は本人に任せているが、自己決定ができない方はスタッフ側で選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な下ごしらえは利用者をお願いしている。又、食事後の後片付けは皆で協力して行っている。	食材と献立は業者に一任している。入居者は肉類、揚げ物等が好きである。お楽しみメニューの日を設け、入居者の要望に応じ一緒に作っている。餅つきの相どりなどできる事に参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	タイヘイを利用し、食材とレシピを配送して頂いている。又、利用者の状態に合わせて刻んだり、ミキサーにかけたり、ムース食を提供している。水分は飲みにくい場合はゼリー状にしたり、トロメリンを使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝晩は行なうが毎食後は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見てトイレ誘導し、自分で排泄できるように見守り行う。排泄感覚が無い方はパットやオムツにて対応している。	意思疎通の困難な方はサインを見逃がさず誘導している。重度の方は訪室してパッド交換である。夜間帯ふらつきのある方には家族と相談しパッド交換や時間で声をかける等個々に応じている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の水分量を見ながら調節し、少しでも多くの水分を取って頂きユニット内の歩行などの運動を行い、排便を促すよう心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	前回の入浴日を参考にしながらスタッフと連携を取り、ご本人の体調も子考慮して声掛け入浴して頂いている。	熱め、一番風呂、入浴剤を入れたい等の要望に応じ、午前午後の入浴を支援している。面倒だからと拒否気味な方には、洋服をほめたり、入浴後にキンキンに冷えたワインを準備しています等声掛けに工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間ごとに訪室し、安全に眠っているか確認する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能をあらかじめ理解し、服薬の際にはスタッフ同士で声掛けしあい、名前を呼び、顔と名前が一致していることを確認してから内服。飲み込むまで見守り行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、できる事はやって頂き、一日にメリハリのある生活を送って頂く。行事や誕生日のお祝いなど楽しみのある生活を送って頂く。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関の扉は日中は開錠しており、いつでも出ていけるようにしている。外に行きたい時はスタッフが付き添っている。又、個人的に遠くへ外出したい時はご家族のご協力を頂いている。皆で外出するときは計画を立てて外出している。	季節に応じ花見、植物見学、七夕、蒲鉾館は年間行事で実施している。入居者が墓参りを希望してもその場所が遠く家族の協力が難しい。日常に買い物や外食など個々に応じている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持は本人の希望や状態に応じて家族と相談しながら行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて家族と相談しながら行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下は必要以上の装飾はせず、利用者の居室だと分かりやすいように表札をつけている。リビングは季節感がわかるような装飾にし、話題の一つとしてコミュニケーションをとっている。	居間兼リビングは明るく、入居者と職員が一緒に作成した塗り絵、冬景色の貼り絵や切り絵のモビール等が温かみを出している。入居者はテーブルを囲み、外の景色を眺めたり、BGMの唱歌を聞きながらゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチや椅子を置き、一人でくつろげるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみの家具を持参頂けるよう入居時より話をしている。又、お部屋のレイアウトはご家族と一緒にいる。	フローリング、畳敷きに洗面台が設えてある。3点セットの箆箆に鏡台、仏壇が置かれ、布団がたたまれ整頓された部屋、好きな猫の写真、ラジオを流すなど思い思いの居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニットのいたるところに手すりをつけ、手すりをたどりながら移動ができるようにしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475300562		
法人名	株式会社ウェル		
事業所名	なんてん伊在荘 ユニット名 せせらぎ		
所在地	仙台市若林区伊在字西田70-3		
自己評価作成日	平成28年1月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

なんてん伊在荘では、現在地域との関わりをたくさん作り、地域の一員として生活できるよう取り組んでおります。去年行った夏祭りでは民生委員の方や町内会長のお声掛けにより、地域の子供会のご協力も頂きました。夏祭りだけではなく、現在は廃品回収に協力するなどでつながりを継続しております。又、地域の保育園の園児たちとは長いお付き合いをさせていただいております。今後はご近所の方々が気軽ににお茶のみにいらっしゃれるような環境作りに取り組んでいこうと思っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/">http://www.kaijokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成28年	1月	20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設してから13年目を迎える「なんてん伊在荘」は、入居者が行動的で外出の機会が多い「やま風」、入居者の症状が進んでおり個々に折り紙や散歩で過ごされることが多い「せせらぎ」、入居者と職員の絆が深い「あお空」の3ユニットで、それぞれの特徴を尊重した支援に努めている。職員の入れ替わりが多く、家族から指摘や意見があり、職員の基本的な接遇マナー研修をし、改める等努めている。目標達成計画に掲げた地域交流は、日頃その関係性を意識し、積極的に働きかけ、改善に向かっていく。さらに日常的な協力体制を構築しようと運営推進会議を活用し取り組んでいきたいとしているので期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **なんてん伊在荘** )「ユニット名 **せせらぎ** 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域家族と共に安心とあなたらしい暮らしを真心を込めてお手伝いしますという理念を掲げ、職員全員で共有している。	年度初めに職員全員で見直し一部改めた。職員の見やすい所に掲示している。日常のケア、家族からの意見等を真摯に受け止め、ミーティング時に振り返ったり、研修を実施し改善する様取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内のお祭りに参加したり、保育園の子供たち屋傾聴ボランティアの方々が遊びに来てくださる。	目標達成計画に掲げ、地域交流に積極的に働きかけた。商業施設が多く、地域との協力関係が困難な状況にある。事業所の知名度もなかなか浸透しがたく、継続して取り組みたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生や中学生の実習屋職場体験の受け入れをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族からの要望などに反映できるようミーティングなどで話し合っている。	「伊在荘サロン」と名称を改めて家族の顔ぶれも変わった。生垣の伐採やホームの夏祭りに地域住民の参加協力の呼びかけ、家族来訪時の職員の挨拶の指摘等が話し合われ、改善する等有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの方に運営推進会議に参加して頂いている。	介護保険の更新手続きに出向くことが多い。若林地区の地域ケア会議「地域包括ケアについて」に2回程管理者が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止のマニュアルがあり、スタッフがすぐ見れるよう各ユニットに配置している。内部の勉強会でも身体拘束に関して取り入れている。	年2回、担当が企画し勉強会を実施している。テスト形式にし、日常のケアの振り返りをし、拘束について確認する。認知症状が進み、声掛けに応じない方には短い言葉「来て」等と身振り、手振りで伝え本人の行動につながる様支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施し、知識を深めるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ユニットでは成年後見人制度を利用されている方はいないが、今後の為、研修の機会を作っていくたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に時間を設け、重説に基づき説明を行い、ご理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などで意見を頂いたり、玄関に意見箱を設置しており、頂いた意見はミーティングなどで話しあっている。	職員の名前がわからない、家族への挨拶がない等厳しい意見があり、接遇マナー研修をし、職員間で改めたり、玄関に顔写真入りで掲示する等改善に努めた。家族の要望もあり、家族会を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回ほどリーダー会議を行っており、ユニット会議などで出たスタッフの意見などの報告をもらっている。又、気軽に話せる雰囲気を作り、スタッフから意見を聞いている。	研修で学んだアロマの効果を取り入れ、香りで入居者が落ち着くなど、職員が意見を出し合いサービスに反映させている。職員の自己評価で頑張ったところを管理者が評価し、接遇面が改善する様努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得やスキルアップに理解して頂き、研修会などに参加できるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	評価シートを使い、項目ごとに自己評価を行い個々のスキルの把握をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各事業所との交換研修を設け、他事業所の気づいた点や良かった点などを参考にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の会話から本人が困っていることはなにか確認し、スタッフ間で話し合いをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所時に本人の状態を伝え、何か困っていることなどがなければ確認を行い安心して頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一人一人との時間を大切に、今何が必要か見極め、カンファレンスを行い、又家族からの要望があれば同様の対応をとり、工夫している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の状態に合わせて家事やレクリエーションを行っていき、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時に本人の状態を伝え、何かあれば電話にて報告を行い協力して頂き関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に協力して頂き友人などに来所して頂いたり、ドライブがてらに地元の近くに行くなど工夫している。	近くの神社に行ったり、家族の面会や、時折来訪する保育園児を楽しみに待っている。家族に電話をしたい要望にはその都度応えている。入居者間の仲もよく、他ユニットを訪問しお茶飲みをし交流をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事などを手伝って頂いたり、きっかけを作りながら利用者同士の会話を促している。又、状況によってはスタッフが橋渡しを行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は左記の状況が無いため今後左記の状況になったときに必要に応じて対応していく。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1対1での会話、入浴時など、日々の会話の中から。又、伝えるのが困難な方は本人の様子から気持ちをくみ取り把握に努めている。	「明日、何かある」と午後に不穏行動になる入居者と一緒に食事作りをすると軽減した。誕生日にエプロンを贈り、調理を役割とした。入居者の会話、行動から思いを引き出し計画書に反映し実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や情報シート・ご家族からの情報でなじみのある生活ができるようスタッフH間で話し合いをし、工夫している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の状況を見ながら家事やレクなどを行っていき何ができて何ができないのかを見極めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人は日々の会話から、ご家族は来所時などに要望などを聞きスタッフ間で話し合い、介護計画に反映している。	本人の思い、病気とケアの留意事項を見出し、心身の情報シートを基に計画書に反映している。月に1回評価し、4か月に1回見直している。状態の変化時や家族の要望で変更し、担当が家族に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤後、個人記録や日誌・申し送りノートを見て情報を共有している。又、必要に応じて話し合いをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化があれば話し合いを行い、工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の保育園児と交流があり、子供たちとの交流を楽しみにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院以外でも、本人が信頼していた病院へ受診できるよう支援している状況の変化に応じ方向性を確認している。	月2回往診医、訪看が健康チェックに来訪する。入居者の要望に応じて、家族・職員の付き添いで通院する方もいる。皮膚の変化時等は症状を見て軟膏塗布もしている。改善が見られない時は専門医の紹介もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1度医療連携による看護師の訪問があり、体調の変化などを相談し、利用者の健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はホームでの生活・本人の状態を具体的に伝え、職員がお見舞いに行き、本人の不安の軽減に努め粗応期退院に向けて病院・本人・家族と相談し対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の体調の変化にあわせ、医師から状況説明や助言を頂き看取りの指針を確認。事業所としてできる事・できないことを明確に提示し今後について相談するようにしている。	数例の看取りをしている。開所時からの入居者を、家族の要望で、医師の指示のもとに対応見送りができた。家族から不満もなく、職員間でも後悔の無い対応が出来た。家族の多くが看取りを希望しており、応えていきたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、情報の共有を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し職員が周知徹底できるよう避難訓練を行っている。	年2回(夜間想定含む)実施した。2階の入居者をベランダではなく1階に避難させることや地域の協力要請などが反省に出た。9月の水害時は近くの商店の協力があつたが夜間帯の協力体制がなく懸念される。	入居者の避難等に関する人員の協力体制等は職員だけでは限界がある。訓練時にも地域に呼びかけ、協力体制を整備する等入居者、家族、職員の安心感につなげて頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を尊重し、本人との信頼関係を大切にし声掛けや対応で利用者様の保頃屋プライバシーを損ねる事のないよう声掛けを行っている。	排泄の時には戸を閉める。入浴時はタオルで全体を覆う等配慮している。耳元で静かに話し対応する。接遇マナー研修で基本的な挨拶などを学び、職員間の意識に変化が見られる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で利用者が自己決定できるよう選択の場を持つようにし、意思疎通が難しい方も本人の表情からくみ取る様職員や家族で意見交換を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペース・想いを大切にしその都度利用者本位なんおか職員同士で話し合う機会を持っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容の協力を得ている。本人・家族の意見を聞きながら決めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様のできる事難しいことを把握し、利用者様と一緒にできる事を考え皆でお手伝いして頂けるようにしている。	食材と献立は業者に一任している。入居者は肉類、揚げ物等が好きである。お楽しみメニューの日を設け、入居者の要望に応じ一緒に作っている。餅つきの相どりなどできる事に参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日誌に毎食の摂取状況を記入し、情報を共有している。献立・食材は業者からの物を使用。バランスのとれた献立となっている。毎月決まった日に体重測定行い、健康状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後本人のできる場所まで行ってもらう、状態に応じてケアを行っている。就寝前には洗浄剤を使用し、義歯の消毒を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれのトイレの間隔、タイミングを把握し、利用者に合ったトイレ誘導を行うことで排泄の失敗を減らすように取り組んでいる。	意思疎通の困難な方はサインを見逃がさず誘導している。重度の方は訪室してパッド交換である。夜間帯ふらつきのある方には家族と相談しパッド交換や時間で声をかける等個々に応じている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時にオリゴ糖入りの牛乳を提供。朝食時には必ず、オリゴ糖入りの牛乳観点を出している。利用者にあわせた適度な運動や十分な水分摂取など排泄できるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に添い、気持ちよく入浴できるように配慮している。拒否のある方には入浴した後のフォローを大切に次回の入浴への不安を軽減できるようにしている。	熱め、一番風呂、入浴剤を入れたい等の要望に応じ、午前午後の入浴を支援している。面倒だからと拒否気味な方には、洋服をほめたり、入浴後にキンキンに冷えたワインを準備しています等声掛けに工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調に配慮し、昼食後に居室で休息して頂いている。夜勤者には日中の様子や体調、排泄状況などを申し送っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最近の処方箋をファイルに保管しスタッフがいつでも内容を確認できるようにしている。臨時処方や服薬変更時にはケースや申し送りノートを使用し、情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ケアプランの中で本人の楽しみについて本人の生活歴や言葉などから引き出そうとといった場面が増えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や意見を確認しながら行事・イベントに誘い、外出支援をしている。野草園や松島に紅葉狩りドライブに行かれている。	季節に応じ花見、植物見学、七夕、蒲鉾館は年間行事で実施している。入居者が墓参りを希望してもその場所が遠く家族の協力が難しい。日常に買い物や外食など個々に応じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は本人の希望や状況に応じて家族と相談しながら行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族からの電話を取り次いだり、利用者の要望に応じて電話をかける支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場所には温度計を設置し、過ごしやすい環境となるように換気するなど調整を行っている。利用者様と作成した季節を感じる絵を飾っている。	居間兼リビングは明るく、入居者と職員が一緒に作成した塗り絵、冬景色の貼り絵や切り絵のモビール等が温かみを出している。入居者はテーブルを囲み、外の景色を眺めたり、BGMの唱歌を聞きながらゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に長椅子を置いたり、利用者のくつろげる場所を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が持参された写真を飾り、家族とのつながりも感じて頂けるように配慮している。又、夏祭りやドライブに出かけられた写真を飾っている。	フローリング、畳敷きに洗面台が設えてある。3点セットの箆箆に鏡台、仏壇が置かれ、布団がたたまれ整頓された部屋、好きな猫の写真、ラジオを流すなど思い思いの居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人ができることを活かし、サポートしながら必要な部分の環境作りを工夫している。トイレや風呂場や居室など見やすいわかりやすい文字を使い、設置している。1か月に1度危険箇所チェックを行い、安全面の見直しをしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0475300562		
法人名	株式会社ウェル		
事業所名	なんてん伊在荘 ユニット名 あお空		
所在地	仙台市若林区伊在字西田70-3		
自己評価作成日	平成28年1月5日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

なんてん伊在荘では、現在地域との関わりをたくさん作り、地域の一員として生活できるよう取り組んでおります。去年行った夏祭りでは民生委員の方や町内会長のお声掛けにより、地域の子供会のご協力も頂きました。夏祭りだけではなく、現在は廃品回収に協力するなどでつながりを継続しております。又、地域の保育園の園児たちとは長いお付き合いをさせていただいております。今後はご近所の方々が気軽にお茶のみにいらっしゃれるような環境作りに取り組んでいこうと思っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/">http://www.kaijokensaku.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成28年	1月	20日

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

開設してから13年目を迎える「なんてん伊在荘」は、入居者が行動的で外出の機会が多い「やま風」、入居者の症状が進んでおり個々に折り紙や散歩で過ごされることが多い「せせらぎ」、入居者と職員の絆が深い「あお空」の3ユニットで、それぞれの特徴を尊重した支援に努めている。職員の入れ替わりが多く、家族から指摘や意見があり、職員の基本的な接遇マナー研修をし、改める等努めている。目標達成計画に掲げた地域交流は、日頃その関係性を意識し、積極的に働きかけ、改善に向かっていく。さらに日常的な協力体制を構築しようと運営推進会議を活用し取り組んでいきたいとしているので期待したい。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **なんてん伊在荘** )「ユニット名 **あお空** 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社・事業所・ユニットそれぞれに理念があり、スタッフは理念に基づいたケアを行っている。	年度初めに職員全員で見直し一部改めた。職員の見やすい所に掲示している。日常のケア、家族からの意見等を真摯に受け止め、ミーティング時に振り返ったり、研修を実施し改善する様取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、事業所で行う行事に参加頂いたりと交流を行っている。又、ボランティアの方との交流もある。	目標達成計画に掲げ、地域交流に積極的に働きかけた。商業施設が多く、地域との協力関係が困難な状況にある。事業所の知名度もなかなか浸透しがたく、継続して取り組みたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験や、高校生の介護実習を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会で出た意見については全体で話し合いを行い、取り組んでいる。	「伊在荘サロン」と名称を改めて家族の顔ぶれも変わった。生垣の伐採やホームの夏祭りに地域住民の参加協力の呼びかけ、家族来訪時の職員の挨拶の指摘等が話し合われ、改善する等有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの方に運営推進会議に参加して頂いている。	介護保険の更新手続きに向向くことが多い。若林地区の地域ケア会議「地域包括ケアについて」に2回程管理者が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会でテーマとして取り上げ、スタッフ全体が意識して行動している。外部で行われる研修等にも参加している。	年2回、担当が企画し勉強会を実施している。テスト形式にし、日常のケアの振り返りをし、拘束について確認する。認知症状が進み、声掛けに応じない方には短い言葉「来て」等と身振り、手振りで伝え本人の行動につながる様支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても勉強会でテーマとして取り上げ、学びながら取り組んでいる。外部で行われる研修等にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ユニットでは成年後見人制度を利用されている方はいないが、今後の為、研修の機会を作っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に時間を設け、重説に基づき説明を行い、ご理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日ごろからご家族様とのコミュニケーションを大切にしており、気軽に意見を出して頂けるように心がけている。	職員の名前がわからない、家族への挨拶がない等厳しい意見があり、接遇マナー研修をし、職員間で改めたり、玄関に顔写真入りで掲示する等改善に努めた。家族の要望もあり、家族会を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニットミーティング等から意見を出している。コミュニケーションを大切にしている。	研修で学んだアロマの効果を取り入れ、香りで入居者が落ち着くなど、職員が意見を出し合いサービスに反映させている。職員の自己評価で頑張ったところを管理者が評価し、接遇面が改善する様努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得やスキルアップに理解して頂き、研修会などに参加できるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	評価シートを使い、項目ごとに自己評価を行い個々のスキルの把握をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各事業所との交換研修を設け、他事業所の気づいた点や良かった点などを参考にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	1対1での対応を心掛け、納得できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話や話し合いで様子をふまえて納得できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の様子観察等を踏まえて家族へ対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフに家族のように接して頂けるよう対応を考えながらケアをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との懸け橋になる様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人とのかかわりの中で、なじみの関係が途切れないよう家族の協力を頂きながら行っている。	近くの神社に行ったり、家族の面会や、時折来訪する保育園児を楽しみに待っている。家族に電話をしたい要望にはその都度応えている。入居者間の仲もよく、他ユニットを訪問しお茶飲みをし交流をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが橋渡しをしながら利用者同士の関係を築いて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現状の把握ができるよう、時折連絡するよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との関わりを大切に意向を尊重するよう努めている。	「明日、何かある」と午後に不穏行動になる入居者と一緒に食事作りをすると軽減した。誕生日にエプロンを贈り、調理を役割とした。入居者の会話、行動から思いを引き出し計画書に反映し実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活環境を把握し、一人一人に合ったケアをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のペースに合わせて本人の現状を把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ同士で話し合いをし、介護計画を作成。スタッフ間で周知徹底し、変化等は記録に残し情報を共有する。	本人の思い、病気とケアの留意事項を見出し、心身の情報シートを基に計画書に反映している。月に1回評価し、4か月に1回見直している。状態の変化時や家族の要望で変更し、担当が家族に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付いたことは日誌や申し送りノートに残し、情報を共有。次回の介護計画に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフとの情報共有にて柔軟に対応できるようサービスに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でのコミュニケーションを大切にし、安全な生活ができるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族との連携を大事にし、適切な医療が受けられるよう対応している。	月2回往診医、訪看が健康チェックに来訪する。入居者の要望に応じて、家族・職員の付き添いで通院する方もいる。皮膚の変化時等は症状を見て軟膏塗布もしている。改善が見られない時は専門医の紹介もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1回訪看が来所し、変化等を報告し、アドバイスももらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状況に応じて看護師や先生と情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との連携を大事にし、重度化・看取りの指針を今一度確認し、家族・本人の希望通り過ごせるようDrと連携を取りながら行っていく。	数例の看取りをしている。開所時からの入居者を、家族の要望で、医師の指示のもとに対応し見送りができた。家族から不満もなく、職員間でも後悔の無い対応が出来た。家族の多くが看取りを希望しており、応えていきたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応の勉強会を行い、いざというときにあわてる事ないようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域でのお祭り等で地域の方々との連携を密にし、協力体制ができるよう努めている。定期的な避難訓練を行っている。	年2回(夜間想定含む)実施した。2階の入居者をベランダではなく1階に避難させることや地域の協力要請などが反省に出た。9月の水害時は近くの商店の協力があつたが夜間帯の協力体制がなく懸念される。	入居者の避難等に関する人員の協力体制等は職員だけでは限界がある。訓練時にも地域に呼びかけ、協力体制を整備する等入居者、家族、職員の安心感につなげて頂きたい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬する心を持ち、思いやりを大切に接している。	排泄の時には戸を閉める。入浴時はタオルで全体を覆う等配慮している。耳元で静かに話し対応する。接遇マナー研修で基本的な挨拶などを学び、職員間の意識に変化が見られる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の様子観察等を踏まえて家族へ対応している。希望や思いをたくさん話して頂けるよう日頃からコミュニケーションを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状況にあわせ、本人が思うように暮らせるよう一人一人対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる方にはお任せし、できない方には一緒に服選びをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味見をして頂いたり、なるべく本人の好みに合わせた味付けができるようにしている。	食材と献立は業者に一任している。入居者は肉類、揚げ物等が好きである。お楽しみメニューの日を設け、入居者の要望に応じ一緒に作っている。餅つきの相どりなどできる事に参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態を工夫したり、本人の食べやすい形で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できる方には声掛けにて対応し、できない方には一部介助にて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間だけでトイレ誘導ではなく、一人一人のペースを把握しタイミングをつかみ排泄の自立に支援している。	意思疎通の困難な方はサインを見逃がさず誘導している。重度の方は訪室してパッド交換である。夜間帯ふらつきのある方には家族と相談しパッド交換や時間で声をかける等個々に応じている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オリゴ糖を使ったり、便秘にならないよう適度な運動も含み便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の体調だけではなく、気分に合わせて入浴して頂き、一人一人のタイミングも見極め無理のないように楽しみながら支援する。	熱め、一番風呂、入浴剤を入れたい等の要望に応じ、午前午後の入浴を支援している。面倒だからと拒否気味な方には、洋服をほめたり、入浴後にキンキンに冷えたワインを準備しています等声掛けに工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に、夕食後は静かに過ごすようにし、排泄ウイ済ませ、アロマなども利用し、個人のペースに合わせて休んで頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の用法などを十分に把握し、一人一人の体調の変化にも合わせ間違えの内容確認しながら内服して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	傾聴ボランティアや三味線ボランティアなど外部からの支援も取り入れ、利用者が楽しく気分転換できるよう実践している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調に合わせて外への外出が困難な場合もあり、ベランダでの芋煮会などを行い、楽しんで頂けるよう気分転換を行っている。	季節に応じ花見、植物見学、七夕、蒲鉾館は年間行事で実施している。入居者が墓参りを希望してもその場所が遠く家族の協力が難しい。日常に買い物や外食など個々に応じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お祭りや行事の時は、スタッフと一緒に買い物を楽しんで頂いている。それ以外は立替えにて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に合わせ、家族などへ電話をし、本人に取り次ぐ支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	アロマを入れた加湿器を利用し、リラックスできる環境を作っている。	居間兼リビングは明るく、入居者と職員が一緒に作成した塗り絵、冬景色の貼り絵や切り絵のモバイル等が温かみを出している。入居者はテーブルを囲み、外の景色を眺めたり、BGMの唱歌を聞きながらゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にソファを置いたり、気の合う利用者同士で同じテーブルに座って頂くなどの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が以前から使用していた家具やぬいぐるみなどを置き、自宅にいるような雰囲気作りをしている。	フローリング、畳敷きに洗面台が設えてある。3点セットの箆箆に鏡台、仏壇が置かれ、布団がたたまれ整頓された部屋、好きな猫の写真、ラジオを流すなど思い思いの居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には手すりを多く設置し、残存機能を活かし、かつ、安全に生活できるよう支援している。		